

アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業提案書

1. 提案事業概要

【事業名】	東アジア沿岸域における衛星水色研究データ利用ワークショップ
(英語名称)	Workshop for ocean colour data collection, distribution and utilization for East Asian coastal waters
【提案者氏名、役職、機関・部署名】	平田貴文、博士研究員、北海道大学 地球環境科学研究院 地球圏科学部門
【事業形態】*	国際集会の開催
【実施期間】†	2010年 12月 17日～ 2010年 12月 18日 (2日間)
【実施場所】†	北海道大学
【参加国・地域】†	タイ・ベトナム・中国・台湾・シンガポール等 6ヶ国・地域
【事業概要】	
<p>事業要約</p> <p>本提案は 平田貴文（北海道大学）を代表者とした、各大学・研究機関の10名からなる我が国の海色リモートセンシングの研究コミュニティによる提案である。当該コミュニティは「日本人研究者による取得が困難な東アジア沿岸諸国の海洋データの取得に向けた当該諸国との共同研究の促進」と「日本が打ち上げ予定の海洋観測衛星から得られるデータの東アジア沿岸諸国への提供および利用促進」を戦略的目標としている。本提案はその達成に必要な東アジア沿岸諸国との人的ネットワークの形成を行うことを目的として、東アジア沿岸諸国・地域の主要な研究者(予定 9名)を招いて2日間のワークショップを行うことを提案するものである。招聘予定する外国人研究者9名中のうち8名は、日本での留学あるいは滞在経験を有するか、あるいは日本における研究プロジェクト等に参加経験があり、ワークショップ後の共同研究への積極的参加することが期待できる者を招聘する。また、招聘予定の外国人研究者の選択には、東アジア沿岸国の大学や研究所で中堅以上の役職をもっており、現地での研究計画作成や研究履行の他にも現地の若手研究者に与える影響力（留学促進など）も考慮している。ワークショップは1日目には参加者による研究発表会を開き、衛星データ利用による社会的・学術的利益獲得の可能性を模索し、その履行に伴う問題点（データ不足など）を把握する。2日目の前半には、1日目の研究発表を受けて、参加者間で挙げられた問題点のディスカッションを行う。2日目後半では、我が国の研究者は東アジア研究者との間で、ワークショップ終了後の共同研究の方向性に向けて、具体化・明示した合意を目指す。本ワークショップの開催時期は、世界的にも頻繁には実施されない我が国の衛星観測ミッションと同期したものである。そのため実にタイムリーであると共に、衛星ミッションのような大型プロジェクトとの連携による費用対効果の向上が期待できるものである。</p>	